

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人弘前大学、岩手大学、秋田大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会
における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

(1) 構想の卓越性

○経営改革構想はやや不十分であり、特色や卓越性・優位性を持った構想にするためには更なる検討が
望まれる。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえるとやや実現可能性に
欠ける。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると、継続性・発展性に欠けており、
構想を持続的なものとするためには更なる検討が望まれる。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組は、実効性がやや不十分であり、実効性のある取組にするため
には更なる検討が望まれる。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実勢等を踏まえると、水準や検証可能性が不十分であり、妥当性のある成果
目標とするためには更なる検討を要する。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けた姿勢がやや不十分であり、今後、全学体制で臨む姿勢が
望まれる。

(検討会の所見)

○リメディアル教育に配慮している点は評価できるものの、取組が語学やセキュリティ対策などに限定さ
れており、一層の発想が必要ではないか。

○連携の効果が見えにくく、もっと踏み込んだ連携方策が期待される。

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人静岡大学、浜松医科大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会
における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

(1) 構想の卓越性

○経営改革構想はおおむね良好であるが、今後、更なる卓越性・優位性を持つ構想となることが期待される。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、十分に実現可能なものとなっている。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されている。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、おおむね適切であるが、良好であるとまではいえない。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が感じられるものとなっている。

(検討会の所見)

○地域性に配慮した新しい形の経営統合と大学の再編計画で現実的な構想と評価できる。

○再編統合による効果的・効率的な展開が可能であるが、そのことに関する取組が示されていない。

○浜松地区の連携による効果が明らかであるのに対して、静岡地区の統合メリットが見えない構想となっている。

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会
における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

(1) 構想の卓越性

○良好な経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが期待される。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、十分に実現可能なもの
となっている。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が十分に担保さ
れている。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可
能なものとなっている。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が強く感じられるものとなっている。

(検討会の所見)

○高等専門学校との密接な連携を活用したスケールメリットを生かした地域産官学連携プラットフォーム
を構築しようとする構想であり、間接経費及びその活用に関する普遍性のある提案も含まれていること
は評価できる。

○既に整備されている教育ネットワークを活用することで、教養教育など共有できる科目の新しい形での
効果的かつ効率的な教育も可能ではないか。

○連携に関するシナジー効果の検討が不足しているように思われ、現構想ではまだ深みに欠けている。

○他の理工系大学との連携についても検討の余地があると思われる。

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人徳島大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会
における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

(1) 構想の卓越性

○経営改革構想はおおむね良好であるが、今後、更なる卓越性・優位性を持つ構想となることが期待される。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると実現可能性に欠けている。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると、継続性・発展性に欠けており、構想を持続的なものとするためには更なる検討が望まれる。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組は、おおむね適切であるが、やや実効性に欠ける。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、おおむね適切であるが、良好であるとまではいえない。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が感じられるものとなっている。

(検討会の所見)

○大学間連携を促進するための新規性のある提案であり、多くの大学が参加することで効果が上がると期待される。

○クラウドファンディングの取組の活用については、他大学への波及効果が期待される。

○地方大学の新しい形として前向きに評価できるが、実現可能性が明確ではない。

○これだけで経営改革につながるかは不透明である。

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人北海道大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会
における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

(1) 構想の卓越性

○良好な経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが期待される。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、十分に実現可能なもの
となっている。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されてい
る。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組は、おおむね適切であるが、やや実効性に欠ける。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可
能なものとなっている。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が感じられるものとなっている。

(検討会の所見)

○徹底した研究 IR は、シーズを可視化して産学連携に結びつける先進的な取組である。IR 分析の結果
を、今後の戦略的経営に結びつけて発展させていくことを強く期待している。

○若手人材を重視し、大学における閉塞感を払拭しようとしている。

○知識集約型エコシステムに関しては散発的な取組に終わってしまわないかが懸念される。

○改革方策はいずれも財源が必要だが、その裏付けが不十分である。また、備品の計上が貴大学の構
想に馴染むのかは示されなかった。

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人千葉大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会
における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

(1) 構想の卓越性

○経営改革構想はやや不十分であり、特色や卓越性・優位性を持った構想にするためには更なる検討が
望まれる。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっ
ている。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると、やや継続性・発展性に欠け
る。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組は、おおむね適切であるが、やや実効性に欠ける。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、水準や検証可能性がやや不十分であり、妥当性のある
成果目標とするためには更なる検討が望まれる。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けた姿勢が感じられるが、今後、全学体制で臨む姿勢が期待
される。

(検討会の所見)

○法人のガバナンス改革から部局のガバナンス改革へ踏み込んだ改革を進めていると評価できる。

○取組の中には本補助金を待たずに実現可能なものもあり、構想計画に具体性が足りない。

○PDCA サイクルのうち、統括本部機能は、チェックとアクションが欠如している。

○着実な計画であるが、改革の加速という観点から不十分である。

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人東京工業大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会
における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

(1) 構想の卓越性

○良好な経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが期待される。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、十分に実現可能なもの
となっている。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が十分に担保さ
れている。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、おおむね適切であるが、良好であるとまではいえない。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けた姿勢が感じられるが、今後、全学体制で臨む姿勢が期待
される。

(検討会の所見)

○卓越した教育研究と戦略的社會連携による優れた構想であり、資金計画も明確である。

○大学の強み弱みを分析して、明確な高い数値目標を設けている。

○企業との連携による国費の社會還元やそれを循環させる仕組み、社會への発信力も期待され、他大学
への好事例となりうる。

○補助金のほとんどを基礎研究に係る汎用的な装置購入にあてているが、今回の構想は補助金がなくて
も改革が進むのではないか。

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人金沢大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会
における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

(1) 構想の卓越性

○経営改革構想はおおむね良好であるが、今後、更なる卓越性・優位性を持つ構想となることが期待される。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっている。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると、やや継続性・発展性に欠ける。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組は、おおむね適切であるが、やや実効性に欠ける。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、おおむね適切であるが、良好であるとまではいえない。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が強く感じられるものとなっている。

(検討会の所見)

○世界的に優位性を持つ分野に集中して、結果として社会のサーキュレーションを目指すもので新規性は高い。

○人事評価制度を処遇に反映させている点についても高く評価できる。

○特定の領域に先行投資してそこからの資金を全学展開していく方法論は、その分野が社会展開で画期的な収入源となるものであることが前提であり、このスキームが成立するかが不明確である。

○本提案により持続的な経営改革につながる財務を築くことは困難ではなかろうか。基本的に公的資金に頼った経営改革になっている。

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人大阪大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会
における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

(1) 構想の卓越性

○経営改革構想はおおむね良好であるが、今後、更なる卓越性・優位性を持つ構想となることが期待される。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえるとやや実現可能性に欠ける。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると、やや継続性・発展性に欠ける。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組は、おおむね適切であるが、やや実効性に欠ける。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえ、経営改革構想にふさわしい水準となっており、かつ、検証可能なものとなっている。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が感じられるものとなっている。

(検討会の所見)

○産学連携に関する共同研究講座・部門、協働研究所の設置など、我が国を新しい理念で牽引してきた実績に基づき、経営改革を進めようとするもので、実現の可能性は高い。

○改革の構想がコンセプトどまりで、具体性に欠ける。資金の手当ての実現可能性もやや不確実ではないか。

○共創というコンセプトが極めて曖昧であり、深掘りが必要である。

○OKPI は実力に比べると控えめに設定されている。

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人神戸大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会
における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

(1) 構想の卓越性

○経営改革構想はおおむね良好であるが、今後、更なる卓越性・優位性を持つ構想となることが期待される。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえるとやや実現可能性に欠ける。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると、やや継続性・発展性に欠ける。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組は、おおむね適切であるが、やや実効性に欠ける。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、おおむね適切であるが、良好であるとまではいえない。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が感じられるものとなっている。

(検討会の所見)

○大学の理念(学理と実際の調和)に基づき、海・国際・経営をテーマに改革を進めようとしており、新しい意欲的な取組であるが、実現の可能性、定着性などに若干の不安が残る。学長のリーダーシップに期待したい。

○「海」をキーワードとしたコンセプトは面白いがビジョンとして中身が薄く、経営目標の KPI にも説得性が薄い。

○経営改革に対する意欲は評価出来るが、具体策に欠けている。

○新たに設立する事業会社が神戸大学の事業を一手に引き受けることができるか不明確である。

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人岡山大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会
における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

(1) 構想の卓越性

○経営改革構想はおおむね良好であるが、今後、更なる卓越性・優位性を持つ構想となることが期待される。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえるとやや実現可能性に欠ける。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると、やや継続性・発展性に欠ける。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、おおむね適切であるが、良好であるとまではいえない。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けた姿勢が感じられるが、今後、全学体制で臨む姿勢が期待される。

(検討会の所見)

○人事マネジメント改革ですでに一定の実績があり、今後も改革を継続加速させるとのことなので、他大
学にとっての1つのモデルともなり得るのではないか。

○構想の旗となっている「SDGs への貢献」について、目指そうとしているところはキーワードとしては立派
であるが、具体性と拡大性(一般化)の姿が見えにくい。

○メディカルオープンイノベーションプラットフォームの狙い・達成可能性は高い。一方、メディカル分野以
外の分野(全学的)な変革に展開するための方策は明確になっていない。

○実績や現状分析での強い表現に比して、KPI の数値は穏やかなものになっていて、主張の一貫性と迫
力を削いでいる感がある。

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への
申請に対する所見

国立大学法人広島大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

平成 30 年度国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)への申請について、検討会
における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

(1) 構想の卓越性

○良好な経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが期待される。

(2) 構想の実現可能性

○経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっ
ている。

(3) 取組の継続性及び発展性

○経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されてい
る。

(4) 取組の実効性

○経営改革構想を実現するための取組が適切であり、効果的なものとなっている。

(5) 成果目標設定の妥当性

○成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、おおむね適切であるが、良好であるとまではいえない。

(6) 本事業に対する姿勢

○経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が感じられるものとなっている。

(検討会の所見)

○KPIについて、独自の指標を考案しているが、他との比較可能な指標である必要がある。AKPI、BKPIな
どが妥当なものであれば、然るべき活動をして広く国内外で活用されるようにする努力する価値がある。

○経営改革のための自己財源の確保に対する具体的な取組に欠ける。

○外部人材の採用をテコに大きな改革につなげようとしているが、自前の人材の育成については具体策
に欠ける。

○多数の海外大学と連携を進めようとしているが、どの分野が世界レベルの水準になるのかが明らかに
されていない。